

南牧村花卉生産組合花情報(平成 29 年 5 月)

「なんもくの花」

群馬県南西部の山間地「南牧村」では、平均年齢 70 歳を超える 16 名が 50 種類を超える宿根草や花木等の切り花を生産し、「なんもくの花」として首都圏へ出荷しています。

『定期総会』

「なんもくの花」を生産する南牧村花卉生産組合の定期総会が開催されました。栽培研修会や現地検討会による技術向上、先進地視察や市場視察による情報収集に加え、産地情報のアピールなど活発な事業が計画されました。また組合員も 16 名と仲間も増え、産地として花づくりへの情熱は年々高まっています。



【定期総会】

『いよいよ出荷スタート!』

3月の低温の影響もあり、生育は少し遅めとなっていますが、品質のよい切り花が出荷を待っています。5月からは「なんもくの花」の春の主力品種のオオデマリとスノーボールが出荷最盛期となります。



【八重ヤマブキ】



【出荷前のオオデマリ】

『春の生育状況』

6月からは、スモークツリーやアナベルなどの花木やヒメヒマワリが出荷となります。これから出荷に向けて順調に生育を始めました!

【スモークツリーと芽吹きの様子】 →

